

【樹木・草花の部屋】

エノキ（ニレ科エノキ属 *Celtis sinensis*）

和名；エノキ（榎） **別名**； **英名**；Chinese Hackberry

バラ目 落葉高木

原産地；日本、中国 **花言葉**；協力・力を合わせる・共存共栄 **花の色**；薄黄色



← 写真－１ エノキの樹形

撮影日：２０１２年１１月２日

撮影場所：広陵町馬見丘陵公園にて

撮影者：Tさん

山地や丘陵の適度に湿り気のある日当たりのよい場所に自生し。庭木、公園樹などとしても植栽される。馬見丘陵公園には、木への付く１年の季節を表す樹木を植えてあるゾーンがあります。大きな「榎」です。

写真－２ エノキの枝葉と実

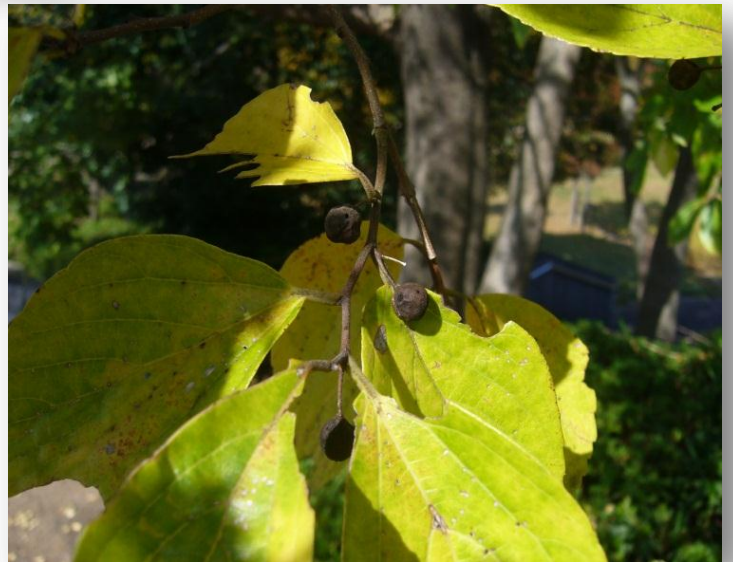


撮影日：２０１２年１１月２日

撮影場所：広陵町馬見丘陵公園にて

撮影者：Tさん

枝は横にのびて広がる。新しい枝に、葉とともにあわい黄色の小さな花が咲きます。花期は４から５月です。秋に球形で赤茶色の実をつける。写真の枝についている黒い実は若い果実です。



幹はこい灰色で割れ目はないが、ざらつくのが特徴です。



【樹木・草花の部屋】

写真-3 エノキの葉 ⇒

撮影日：2010年9月4日スキャン

採取場所：奈良県立高等技術専門校にて

提供者：Mさん

葉は互生します。葉の形は広楕円形です。やや厚く葉の表裏ともに、若葉では両面にさび色の短い繊毛がありざらつきます。葉の基部は広くさび形で左右が不ぞろいなのが特徴です。葉は夏によく繁って樹陰が好まれるから木と夏を組み合わせると和字の榎になったともいわれます。

<ちょっと一言>

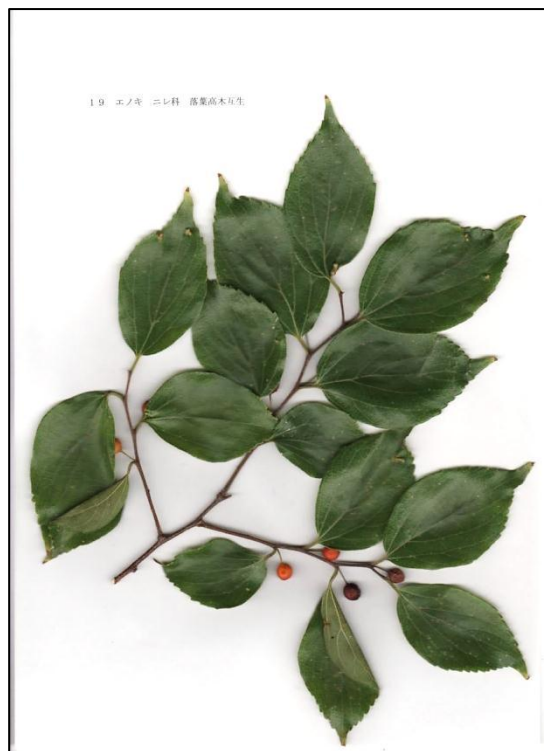
「わが門の榎（え）の実もり喫（は）む百千鳥（もちどり） 千鳥は来れど君ぞ来まさぬ」と「万葉集」に詠まれています。果実が熟す秋にはエノキの多い神社やお寺の森に、ムクドリ、ヒヨドリ、オナガなどが集まってきてにぎやかになります。

エノキには葉や枝によく虫こぶができます。ただし、春だけに限られます。虫こぶを作るのも葉がやわらかくてフレッシュな状態のときでなければならないということでしょう。

名前の由来は俗に信長、秀忠、家光といろいろいわれているが、塚に植えたマツが枯れたので「余の木を植えよ。」を「エノキを植えよ。」と家来が聞き間違えたという俗説がありますが、エノキをヨノキと呼ぶ地方が多いのも、こうした話をもとにしていると思われる。

高木になるので、庭木にはそう適していないと思われるが、小さく育てれば、庭の緑陰樹になり、枝が上でかさ状に広がり、黄葉、落葉後の姿も美しいので、好まれることもあります。広い芝庭に独立植えにするか窓辺に植えるとよいでしょう。

剪定では、枝の先の方ですらりと伸びた感じにするように分かれ目で切り、途中で切り戻しをしない方がよい。冬にこみすぎた枝を透かす程度の手入れでよいでしょう。



木への1年を表す木

椿 ～ 榎 ～ 楸 ～ 柊